

令和5年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価  
概要（全体）

## 島田市地域公共交通会議

平成20年4月30日設置

令和4年5月31日 フィーダー系統 確保維持計画策定等

令和6年1月16日 令和5年度評価結果送付

令和6年3月 島田市地域公共交通計画策定（予定）  
（計画期間：令和6年4月～令和11年3月）

## 島田市の概要

- ・人口 95,752人(令和5年11月現在)
- ・地域 6地域区分(右図)
- ・鉄道 JR東海道本線、大井川鐵道大井川本線
- ・バス 民間 2路線、自主 15路線、空港アクセス 2路線
- ・タクシー 市内に営業所を有する事業者6者
- ・その他 富士山静岡空港が立地

### ▼ 公共交通の現況

#### 幹線

**島田静波線**は、島田市内外の拠点間を連絡し、通勤通学、買物、通院等の日常生活行動だけではなく、観光、ビジネス等、多様な目的での移動を担う。起終点の島田駅前並びに静波海岸入口では、他モードや地域内交通と連絡し、公共交通ネットワークを構築する上で特に重要な役割を担っている。

#### フィーダー

**川根温泉線**は、中心拠点である島田駅と地域拠点である家山駅から周辺部の居住地、観光・交流拠点である川根温泉、川越街道等を連絡する路線であり、地域の移動手段としての役割を担っている。

**田代の郷温泉線**は、中心拠点である島田駅から周辺部の居住地、田代の郷温泉や、ゆめ・みらいパーク等の施設を連絡する路線であり、地域の移動手段としての役割を担っている。

またこれらの路線は、島田駅では東海道本線や島田静波線などへの接続により広域への移動も可能とするなど、地域間幹線系統を補完する欠かせない路線である。

→自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する必要がある。




## 島田市地域公共交通計画(策定中、R6~10)

### 基本方針

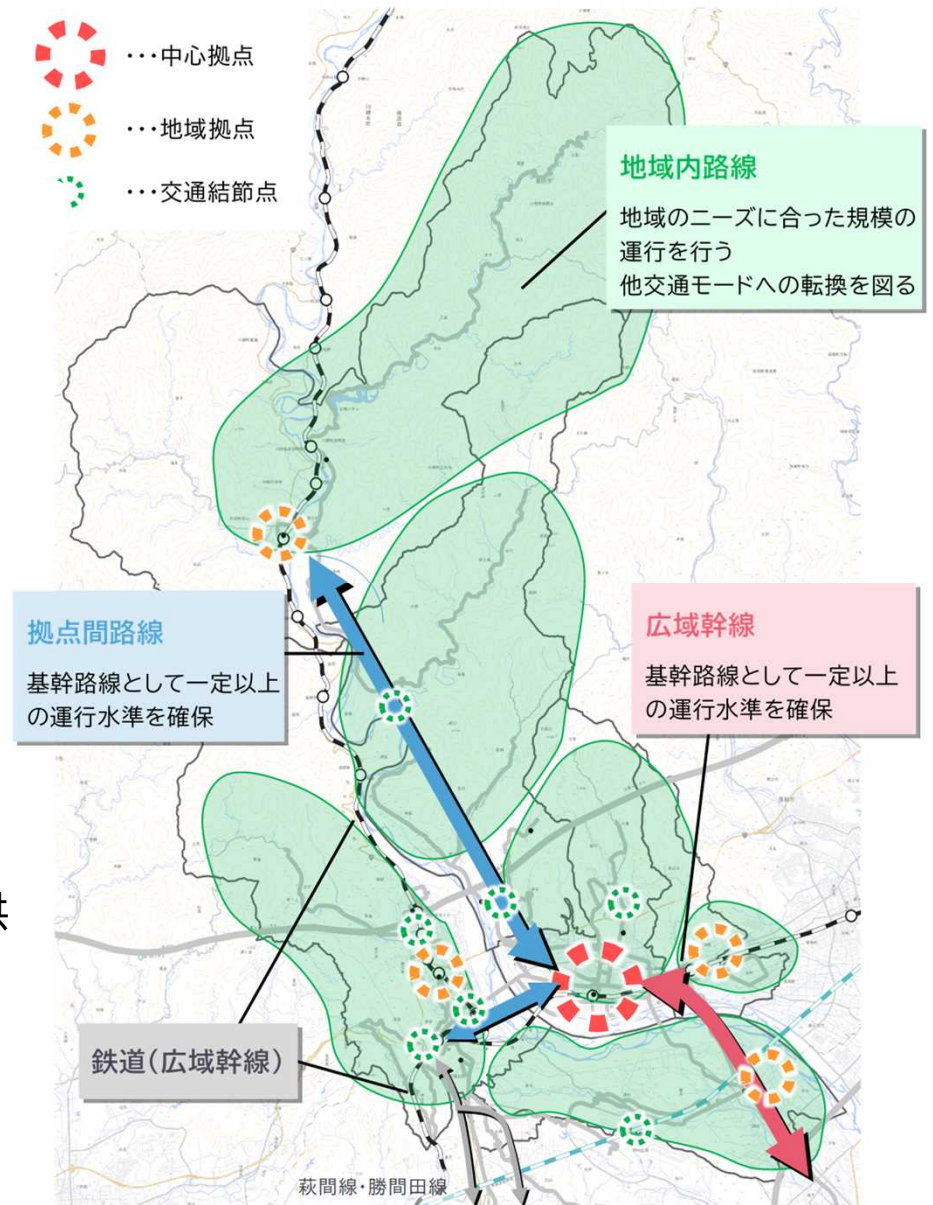
市民の暮らしとまちづくりを支える  
 持続可能な公共交通サービス

### 目標

- 01 安心して暮らし続けるための公共交通の整備
- 02 まちづくりと連動した公共交通網の形成
- 03 みんなで支える持続可能な公共交通の実現
- 04 誰もが利用しやすい公共交通サービスの提供

指標については8ページを参照  ▶ P.8

### ▼ 公共交通網の全体像





## 計画策定以前(令和5年度まで)の主な取組

### ● コミュニティバス川根温泉線、田代の郷温泉線の運行 フィーダー

- ・地域公共交通確保維持事業(フィーダー補助)を活用し運行継続
- ・ダイヤ調整による利便性向上

【利用者数】	令和3年度		令和4年度
川根温泉線	34,655人	➔	39,817人 (+14.9%)
田代の郷温泉線	18,188人	➔	18,367人 (+1.0%)

### ● 地域が主体となる移動サービスの実施

- ・町内会主体の無償輸送事業「ゆめバス」  
高齢者の買い物に必要な足の確保  
高齢者学級への送迎
- ・地区社会福祉協議会による外出支援  
有志のサポーターが生活支援サービスを実施  
買い物時の外出支援だけでなく、ごみ出しや庭木の手入れ等の生活援助も含めた活動  
→ワークショップ(次ページ)等の意見交換を通じ、他の地域への展開を図る



## 計画策定以前(令和5年度まで)の主な取組

### ● 公共交通ワークショップの開催

- ・日常生活での移動に関する困りごとを見つけ、それを解決するためにどのような交通モードが必要かを地域みんなで考える
- ・出された意見を集約し、公共交通計画(将来の公共交通のすがた)に反映

【開催回数】 R4年度:3回(金谷／初倉／六合) R5年度:2回(川根／伊久身・大長)

【参加人数】 R4年度:延べ64人 R5年度:延べ36人



### ● SNSによる運行情報発信

- ・「島田市コミュニティバス」公式Xアカウントを作成
- ・イベント時の迂回等の情報を事前にお知らせ
- ・災害や事故の発生時に運休・遅延の情報をいち早く発信

### ● 標準的なバス情報フォーマット(GTFS-JP)の整備、経路検索サービスへの反映

- ・職員が自前でGTFSデータを作成
- ・GTFSデータリポジトリと連携しオープンデータ化
- ・マニュアルを整備し、今後のダイヤ改正等にも対応できる体制を構築

## 計画策定以前(令和5年度まで)の主な取組(一覧)

取組名称	取組の概要	実施結果	考察
★コミュニティバス川根温泉線、田代の郷温泉線の運行(フィーダー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域公共交通確保維持事業(フィーダー補助)を活用し運行継続</li> <li>ダイヤ調整による利便性向上</li> </ul>	<b>【利用者数】</b> 川根温泉線 R3年度 34,655人 → R4年度 39,817人 田代の郷温泉線 R3年度 18,188人 → R4年度 18,367人	<ul style="list-style-type: none"> <li>大井川流域住民の移動手段の確保のため運行を継続する。</li> <li>地域間幹線系統とフィーダー系統路線間の連携を図る。</li> </ul> ※詳細は本省様式を参照
地域が主体となる移動サービスの実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>町内会主体の輸送事業「ゆめバス」</li> <li>地区社会福祉協議会による外出支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ゆめバス」の継続実施</li> <li>外出支援は3団体が実施(道悦島応援隊、金谷応援隊、大津地区買い物支援事業)</li> </ul>	福祉部門と連携し、現在実施している外出支援事業を他地域に展開していく。
公共交通ワークショップの開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活での移動に関する困りごとを見つけ、それを解決するためにどのような交通モードが必要かを地域みんなで考える</li> <li>出された意見を集約し、公共交通計画(将来の公共交通のすがた)に反映</li> </ul>	<b>【開催回数】</b> R4年度：3回(金谷/初倉/六合) R5年度：2回(川根/伊久身・大長) <b>【参加人数】</b> R4年度：延べ64人 R5年度：延べ36人	令和6年度以降は、各地域で実施する具体的な輸送サービスの検討に際し、ワークショップ等を活用して地域住民と一緒に考えながら進めてゆく。
SNSによる運行情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>Xアカウントを作成</li> <li>イベント時の迂回等の情報を事前にお知らせ</li> <li>災害や事故の発生時に運休・遅延の情報をいち早く発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>R6年1月現在 フォロワー数471</li> <li>継続的な情報提供</li> </ul>	今後も迅速な情報発信を継続して行う。
標準的なバス情報フォーマット(GTFS-JP)の整備、経路検索サービスへの反映	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員が自前でGTFSデータを作成</li> <li>GTFSデータリポジトリと連携しオープンデータ化</li> <li>マニュアルを整備し、今後のダイヤ改正等にも対応できる体制を構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>R4年度にデータ整備完了、国内経路検索サービスへの反映完了</li> <li>GoogleMapの警告文機能を活用しイベント時の迂回情報等を周知</li> <li>データを活用したデジタルサイネージの作成(R6年度予算)</li> </ul>	デジタル技術を活用し、分かりやすく親切な情報提供を実施する。

## 地域公共交通の問題点(アンケート、ワークショップ、ヒアリング等から)

### 利用者の悩み



- ・運行本数が少ないため、利用したい時間に利用できない。
- ・自分の家の近くにバス停がなく、バス停まで歩いて行くのが大変。
- ・通勤の時間帯にバスが走っていない、または鉄道との接続が悪い。
- ・バス停がどこにあるかわからない。ダイヤの調べ方がわからない。
- ・運転免許証を返納後の移動手段(買い物、病院)に不安を抱えている。

### 事業者の悩み



- ・利用者の減少、運転手の不足により、事業継続が厳しくなっている。
- ・回数券を利用できる路線と利用できない路線が市内に混在しており、トラブルの原因となっている。

### 市の悩み



- ・バスの利用者が年々減少している。
- ・運行業務委託に伴う財政負担額が増加している。
- ・バス車両やバス停標識の劣化が進んでいる。
- ・公共交通に対する市民の関心が低い。

## 島田市の公共交通が抱える課題

課題1	<b>日常生活を支える公共交通の確保</b> 特に移動に困難を抱える方の買い物、通院、通学、通勤を支える公共交通を確保する	目標1
課題2	<b>コンパクト・プラス・ネットワークの実現に向けた公共交通網の形成</b> 拠点間や地域内を効率的、効果的に運行する公共交通網を形成する	目標2
課題3	<b>公共交通サービスに対する市負担額の適正化</b> 特に利用の少ない時間帯や運行区間を調査し、運行本数や運賃などのサービス内容を見直すことにより、適正な予算執行に努める	目標3
課題4	<b>地域のニーズをとらえた公共交通見直しのための対話の継続</b> 「地域にとって真に必要な公共交通は何か」を官民一体となって探る	目標4
課題5	<b>利用促進につながる利便性向上策の推進</b> 利用者の目線に立った利便性向上策や情報発信を実施する	目標4



## 島田市地域公共交通計画(策定中、R6～10)における目標、指標(一覧)

目標	指標	設定根拠	達成状況
【目標1】 安心して暮らし続けるための公共交通の整備	新たな手段による公共交通の運行を開始した地区の数 (R4)6地区 → (R10)12地区	計画期間内に倍増を目指す。	※計画期間前のため記載なし
	公共交通カバー率 (R4)73.4% → (R10)78.7%	都市計画マスタープランの計画期間(令和22年度)にカバー率100%を目指すこととし、それを達成できるペースを基に本計画期間の最終年度(令和10年度)における目標値を算出した。	
【目標2】 まちづくりと連動した公共交通網の形成	中心市街地コミュニティバス乗降者数 (R4)141,301人→(R10)214,000人	地域公共交通利用者数(171,814人→260,000人)と同じ増加率を目標とする。	
	中心市街地における歩行者等の通行量 (R10推計)5,836人/日 →(R10目標)6,033人/日	立地適正化計画の目標値(令和22年度時点で5,700人)を達成できるペースを基に本計画期間の最終年度(令和10年度)における目標値を算出した。	
【目標3】 みんなで支える持続可能な公共交通の実現	地域公共交通運行平均収支率 (R4)10% → (R10)20%	デジタル田園都市構想総合戦略における目標値(KPI)による。	
	外出支援事業を実施する団体数 (R4)4団体 → (R10)8団体	計画期間内に倍増を目指す。	
【目標4】 誰もが利用しやすい公共交通サービスの提供	地域公共交通利用者数 (R4)171,814人→(R10)260,000人	デジタル田園都市構想総合戦略における目標値(KPI)による。	
	公式SNSアカウントフォロワー数 (R4)399 → (R10)1,000	1年で100人増ペースを目指す。	



## ■ 島田市地域公共交通計画(策定中、R6～10)における主な取組

### ● タクシーの利用促進

地域住民の生活を支える交通手段として、以下のようなタクシー利用促進策の導入について検討する

- ・エリア内定額運賃制や乗り合い交通など、タクシー車両を活用した新たな公共交通のしくみ
- ・マイナンバーカードを活用したタクシー割引などの住民向けサービス

### ● デマンド交通など新たな交通モードの導入検討

- ・地域との意見交換からニーズをとらえ、既存のバス運行から地域にとって必要な交通モードへの転換を図る
- ・地域住民の移動実態に合わせ、地域内の移動、地域外への移動を支える公共交通サービスを検討する

### ● 市街地循環路線の導入

旧市内・大津地域における居住誘導区域内の公共交通確保のため、北部地域の運行体系見直しに合わせ、ジャンボタクシー車両による循環型の路線を設置

## ■ 島田市地域公共交通計画(策定中、R6～10)における主な取組

### ● 地元主体運行、外出支援事業の推進

- ・現在伊久身地区で実施している地元主体運行(ゆめバス)をモデルケースとして他の中山間地域へ展開させていくために、自治会などへの呼びかけを行う
- ・住民主体の買い物支援事業等の活動を推進し、また市社会福祉協議会と協力して他の地域への展開を進めていく

### ● 探しやすいわかりやすい情報発信

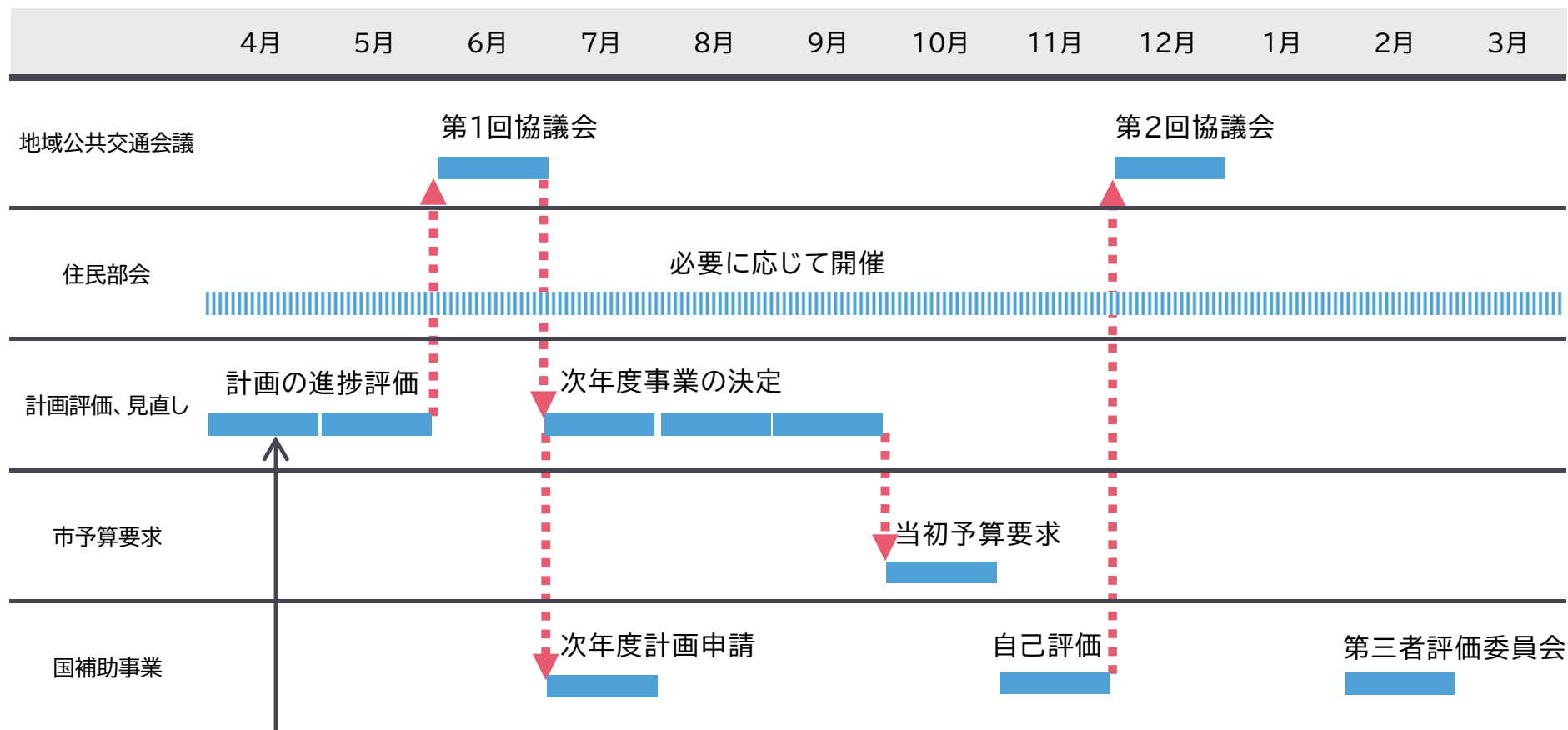
- ・いつでも、どこにいても運行情報がすぐに確認できる状態を目指し、デジタルでの情報発信を充実させていく
  - 経路検索サービスのデータ整備
  - 市内全路線のバスロケーションシステムの導入検討
  - SNSを通じたリアルタイムでの運行情報発信 など
- ・観光部局と連携し、以下のような公共交通施策を推進
  - 観光客やインバウンド需要に対応した情報発信、公共交通を利用した観光ルート  
の整備、多言語対応
  - 点在する観光拠点間を結ぶ観光プランの企画について検討
  - 島田駅前観光案内所へのデジタルサイネージ設置(R6年度予算)

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前回(令和5年3月10日)	<p>【調査事業】 アンケート調査に加え、実際に地域に足を運ぶなど、より踏み込んだニーズ把握(特に、高齢者や高校生など対象を絞った調査等)を行い、持続可能で利便性の高い地域公共交通サービスを実現するための計画策定を期待します。</p>	<p>令和4年11月から各地域で公共交通ワークショップを開催し、地域ごとのニーズの把握を行いました。ワークショップでは、高齢者世代や学生の親世代を中心に参加いただき、運転免許返納後の生活や、高校生の通学に必要な輸送サービスを中心に議論を行っています。</p>	<p>公共交通計画策定後も継続してワークショップを開催し、各地域でどのような輸送サービスを実施すべきかという具体的な議論に移っていきます。</p>
	<p>【調査事業】 停留所ごとの乗降者数や利用者属性の分析・評価による議論や、大井川鐵道と連携した利用促進策等の取組に期待します。</p>	<p>路線ごと、OD調査の結果を分析して地図上に可視化し、乗降地や利用者属性を分析して公共交通計画に掲載しました。</p>	<p>特に利用の少ない区間や時間帯について運行内容の見直しを図っていきます。</p>

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前回 (令和5年3月10日)	<p>【調査事業】 停留所ごとの乗降者数や利用者属性の分析・評価による議論や、<u>大井川鐵道と連携した利用促進策等の取組に期待します。</u></p>	<p>川根温泉線は大井川鐵道大井川本線を補完することから、金谷駅～家山駅間の災害復旧に関し迅速に国との協調補助を実施し、大井川鐵道を支援しています。</p> <p>大井川本線のダイヤ改正時には、大井川鐵道と協議を重ね、利用者への影響が少なくなるよう調整を行いました。</p>	<p>静岡県が主催する「大井川鐵道本線沿線における公共交通のあり方検討会」に参画し、不通区間の復旧に向けた協議を進めています。大井川鐵道とは話し合いを続けており、川根地区での観光誘客策等を通じ利用促進につながる取り組みを進めます。</p>
(令和4年3月10日) 前々回	<p>【フィーダー】 令和5年度中の持続可能な地域公共交通サービスを実現するための地域公共交通計画の策定を期待します。</p>	<p>地域公共交通計画は現在策定中であり、令和5年度中に完成する見込みです。</p>	<p>計画に基づき、持続可能な公共交通網の構築に向けた施策を実施していきます。</p>



## 計画と補助事業の実施、評価スケジュール



- ・前年度末時点における指標の数値を測定し、中間目標値と比較して進捗評価を行う。
- ・必要に応じて、施策の内容及び目標値の修正を行う。

## 島田市地域公共交通会議の開催状況(令和5年度)

開催月	主な内容
令和5年6月27日(火)	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 令和4年度 島田市バス交通の運行状況について(速報値)</li><li>・ 島田市地域公共交通計画(素案)について</li><li>・ 令和5年度地域公共交通確保維持改善事業費補助金の申請について</li><li>・ 生活交通確保維持改善事業費補助金(地域内フィーダー)の申請について</li></ul>
令和5年7月12日(水) (書面)	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 川根本町町営路線バスの家山駅乗り入れについて</li><li>・ 自家用有償旅客運送(交通空白地有償運送)の更新登録について</li></ul>
令和5年12月26日(火)	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 地域公共交通計画(修正案)について</li><li>・ 令和6年度島田市バス路線の運行方針(案)について</li><li>・ 静岡県地域間幹線系統確保維持改善事業評価基準に基づく協議について</li><li>・ 中部運輸局における地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について</li></ul>

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年12月26日

協議会名: 島田市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
しずてつジャストライン(株) 川根温泉線	川根温泉ホテルー家山駅前ー伊久身幼稚園上ー向谷一丁目ー稲荷町ー本通三丁目ー島田駅	平成30年度に川根地区の家山駅前(大井川鐵道)への乗り入れ、稲荷町経由に変更し、令和2年4月に伊久身線の川口東ー伊久身幼稚園上ー川口、相賀線の向谷一丁目ー竜泉院の区間を経由し運行している。令和3年4月から、土日祝日ダイヤを導入し、平日1日6往復(土日祝日は1日4往復)で運行している。	A 雨量規制の影響等により一部運休したが、それ以外の運休等はなく、計画どおり事業を適切に実施した。	A ・目標利用者数34,655人/12か月に対し、39,817人/12か月 ・目標収支率10.9%に対し、12.4%	・家山駅前へのバス乗り入れにより、大井川鐵道と運行時間帯を補完しながら、通勤・通学、通院等による市街地へのアクセスを向上させている。今後も大井川鐵道と共に公共交通を利用しやすくしていく。また、他路線をカバーする体制を整えつつ、中心拠点である島田駅と地域拠点である家山駅を連絡する路線として、持続可能な地域公共交通サービスを目指していく。
しずてつジャストライン(株) 田代の郷温泉線	伊太和里の湯ー伊太団地ー三ッ合町東ー島田駅	令和3年4月から、土日祝日ダイヤを導入し、平日1日7往復(土日祝日は1日5往復)で運行している。また、利用者が見込める島田駅行き初便の始発及び島田駅発最終便の終点を伊太団地バス停に変更し、効率的な運行を実施している。令和4年4月から、より利用しやすい時刻となるよう一部運行時刻の変更を行った。	A 計画どおり事業を適切に実施した。	A ・目標利用者数18,188人/12か月に対し、18,367人/12か月 ・目標収支率12.6%に対し、12.7%	・相賀線との重複区間(三ッ合町東ー中河町)における運行時間帯を補完しながら、通勤・通学、通院等の島田駅へのアクセスを向上させている。今後も補完する体制を維持しつつ、田代の郷温泉やゆめ・みらいパーク等の施設を連絡する路線として、利用しやすい持続可能な地域公共交通サービスを目指していく。

## 事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和5年12月26日

協議会名:	島田市地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持事業
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<ul style="list-style-type: none"><li>◆大井川流域(川根地区)住民の移動手段の確保 平成30年度に、大井川流域(川根地区)住民の市街地への移動手段の確保を目的に、川根温泉線の家山駅前への乗り入れを実現した。今後も鉄道路線である大井川鐵道大井川本線とともに、その役割を担っていく。</li><li>◆他のコミュニティバス路線・民間路線との重複区間における補完体制の維持 川根温泉線と伊久身線・相賀線・静鉄バス金谷島田病院線、田代の郷温泉線と相賀線との重複区間において、島田駅などへの通学・通勤輸送等の補完を行うことで、より使いやすい交通を目指していく。</li><li>◆地域間幹線系統(静鉄バス島田静波線)とフィーダー系統路線間の連携を図る。</li><li>◆上記により、利用しやすい地域公共交通サービスを実現していく。また、令和5年度中の策定を目指し、島田市地域公共交通計画の策定作業を進めている。今後、策定した計画を基に地区ごと見直しを進め、持続可能な公共交通網の構築を目指す。</li></ul>